1204

【ラズパイ】

1.2345(センサ値) → ［〇｜〇｜〇｜〇］の配列のように１バイトずつに分けてNXP送信

（下記のラズパイコードを参照）

【NXP―Enddevice】

ラズパイからUART通信でEnddeviceは受信する. その際, １バイトずつ読み取っていく.

最初を表す0xAA, コマンドを表す0xBBは, 確認するだけで捨てる.

その後のセンサ値はtmpString配列に格納する. このtmpString配列はuint8\_t型にする.

前回この配列がchar型にしていた.

センサ値である4バイトを4回のループでtmpString配列に格納したら,

PUBLIC uint8\_t tmpString[64]　にすることで, 他のファイルから呼び出せるようにし,

遠隔のMONOSTICKに送信するようにした.

(下記のUstilsコード, Enddeviceコードを参照)

【NXP―Coordinator】

受信する側であるCoordinatorでは

DBG\_vPrintf(TRACE\_APP, "%c", u8TempPayload);であった.

tmpStringはuint8\_t で, 中身のセンサ値は16進数のため, %u や %xに変更して

(下記のCoordinatorコードを参照)

実行したが, 空白ではないものの, 0の羅列が続いて表示している.

またセンサデータを格納するtmpString[64]　→　[16]にしたが, 変化なし.

以下はCoordinatorの表示内容である.

テキスト

自動的に生成された説明

【ラズパイコード】

テキスト

自動的に生成された説明

テキスト

自動的に生成された説明

【ラズパイとEnddeviceの表示内容】

テキスト

自動的に生成された説明

【Ustilsコード】

テキスト

自動的に生成された説明

【Enddeviceコード】

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト, アプリケーション, メール

自動的に生成された説明

テキスト

自動的に生成された説明

【Coordinatorコード】

テキスト

自動的に生成された説明